

第860回宮城県教育委員会定例会日程

日 時：平成26年12月17日（水）午後1時30分から

場 所：県行政庁舎 16階 教育委員会会議室

1 出席点呼

2 開会宣言

3 第859回教育委員会会議録の承認について

4 第860回教育委員会会議録署名委員の指名

5 教育長報告

- (1) 平成28年度宮城県立中学校入学者選抜方針及び選抜日程について (高校教育課)

6 専決処分報告

- (1) 第350回宮城県議会議案に対する意見について (総務課)

7 議 事

- 第1号議案 平成28年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について (高校教育課)

- 第2号議案 東北歴史博物館協議会委員の人事について (文化財保護課)

8 課長報告等

- (1) 県立学校における在校時間の状況について (福利課)

- (2) 平成27年度宮城県立中学校入学者選抜の出願者数について (高校教育課)

- (3) 平成27年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況について (高校教育課)

- (4) 平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について (スポーツ健康課)

9 資料（配付のみ）

- (1) 教育庁関連情報一覧について (総務課)

- (2) 平成28年度宮城県・仙台市公立学校教員募集案内について (教職員課)

- (3) 平成29年度全国高等学校総合体育大会宮城県準備委員会の設立について (スポーツ健康課)

10 次回教育委員会の開催日程について

11 閉会宣言

平成２８年度宮城県立中学校入学者選抜方針及び選抜日程について

I 平成２８年度宮城県立中学校入学者選抜方針

宮城県立中学校における入学者選抜は、中学校及び小学校の教育の目的の実現及び健全な教育の推進を期し、公正かつ適正な選抜方法と選抜尺度により厳正に行うものとする。

1 基本原則

- (1) 県立中学校長は、その教育を受けるに足る多様な能力と適性等を評価し、選抜するものとする。
- (2) 出願事務及び選抜事務の厳正を期するため、小学校にあっては調査書等作成のための委員会を、県立中学校にあっては選抜のための委員会を設置するものとする。

2 選抜方法

- (1) 入学者の選抜に当たって、県立中学校長は、調査書及び適性検査の結果を資料として、出願者の能力や適性等を総合的に判断するものとする。
- (2) 適性検査
 - ア 検査は、総合問題、作文及び面接とする。
 - イ 総合問題は、与えられた課題を理解し、これまでの体験や身に付けてきた力を基に、論理的に考え、的確に判断し、解決する力や表現する力等をみるものとする。
 - ウ 作文は、与えられた課題について、自分の考えや思いなどを的確にまとめ、文章で表現する力をみるものとする。
 - エ 面接は、志願理由書を参考資料として、志願の動機や学習への関心・意欲、長所等を多面的にみるものとする。

II 平成２８年度宮城県立中学校入学者選抜日程

適性検査実施日 平成２８年 １月 ９日（土）

選抜結果通知 平成２８年 １月１５日（金）午後４時発送

第350回宮城県議会議案に対する意見について

平成26年11月宮城県議会に提案される下記の予算議案及び予算外議案について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第29条の規定により、知事から意見を求められたので、教育長に対する事務の委任等に関する規則（昭和31年宮城県教育委員会規則第12号）第3条第1項の規定により平成26年11月18日専決処分し、異議のない旨回答した。よって同条第2項の規定により報告する。

記

予算議案

- ・平成26年度宮城県一般会計補正予算

予算外議案

- ・特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例及び県教育委員会教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部を改正する条例
- ・指定管理者の指定について（宮城県長沼ボート場）
- ・工事請負変更契約の締結について（宮城県拓桃医療療育センター及び宮城県立拓桃支援学校新築工事）
- ・工事請負変更契約の締結について（宮城県登米総合産業高等学校（仮称）校舎等新築工事（その1））
- ・工事請負変更契約の締結について（宮城県登米総合産業高等学校（仮称）校舎等新築工事（その2））

平成26年12月17日提出

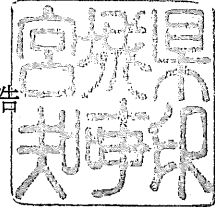
宮城県教育委員会教育長 高 橋 仁



財 第 1 5 1 号
平成 2 6 年 1 1 月 1 8 日

宮城県教育委員会委員長 殿

宮城県知事 村 井 嘉 浩



第 3 5 0 回宮城県議会議案について (照会)

このことについて、下記議案を提出したいので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律 (昭和 3 1 年法律第 1 6 2 号) 第 2 9 条の規定により、貴委員会の意見を求めます。

記

1 予算議案

平成 2 6 年度宮城県一般会計補正予算

2 予算外議案

特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例及び県教育委員会教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部を改正する条例

指定管理者の指定について (宮城県長沼ボート場)

工事請負変更契約の締結について (宮城県拓桃医療療育センター及び宮城県立拓桃支援学校新築工事)

工事請負変更契約の締結について (宮城県登米総合産業高等学校 (仮称) 校舎等新築工事 (その 1))

工事請負変更契約の締結について (宮城県登米総合産業高等学校 (仮称) 校舎等新築工事 (その 2))



第350回宮城県議会（定例会）提出予算議案の概要【教育委員会分】

～平成26年度 11月補正予算の概要～

1 補正予算の概要

単位：千円

	平成25年度	平成26年度			比較	
	11月現計予算額[A]	現計予算額[B]	11月補正額[C]	計[B+C]=[D]	[D-A]	[D/A]
教育委員会分	209,678,699	212,778,948	▲ 1,508,538	211,270,410	1,591,711	100.8%

2 事業の概要

単位：千円

区分	事業概要等	補正額	財源
給与改定等	教育庁関係職員の人件費		
	宮城県人事委員会勧告に伴う給与改定及び共済費の追加費用負担率の変更等による補正		国庫 ▲ 103,871 使用料及び手数料 ▲ 15,185 一般財源 ▲ 1,389,482
	■教職員課 ▲ 1,494,136 本庁各課室・教育事務所・総合教育センター職員 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教職員	▲ 1,508,538	
	■義務教育課 ▲ 536 外国語指導助手（ALT）		
	■高校教育課 5,330 海洋総合実習船（宮城丸）乗組員		
	■生涯学習課 ▲ 4,409 図書館・美術館職員 松島・蔵王・志津川自然の家職員		
■文化財保護課 ▲ 14,787 東北歴史博物館・多賀城跡調査研究所職員			

3 債務負担行為（新規）

単位：千円

区分	事業概要	期間	限度額
債務負担行為	公立施設管理運営業務委託	H26.12～H32.3	58,800
	長沼ボート場の指定管理（H27.4.1～H32.3.31 5年間）に係るもの 指定管理者：宮城県ボート協会（現指定管理者）		
	美術館展示室改修工事	H26.12～H28.3	4,000
	美術館展示室の改修（室内壁材張替え等）に要する経費		
	美術館案内広告掲載業務委託	H26.12～H28.3	1,000
	美術館の概要及び平成27年度の事業内容等に関する広告を制作し広報媒体「るーぶる仙台ガイドブック」へ掲載するため、年度内に広告制作掲載業務契約を締結し、平成27年度の業務完了後に広告掲載料を支払うもの		
	美術館常設展展示関連業務委託	H26.12～H28.3	2,000
平成27年度の美術館常設展開催に係る展示作業業務（展示及び撤去作業）について、年度内に契約を締結し、平成27年度の業務完了後に委託料を支払うもの			
美術館企画展展示関連業務委託	H26.12～H28.3	1,000	
「（仮称）杉戸 洋 展」の開催にあたり、広報用の印刷物や展示装飾等に係るデザイン業務について、年度内に業務委託契約を締結し、平成27年度の業務完了後に委託料を支払うもの 開催予定：H27.5.1～7.26			
美術館企画展観覧料徴収事務委託	H26.12～H28.3	1,000	
「（仮称）杉戸 洋 展」の入場前売観覧券の販売事務について、該当事務により徴収した前売観覧料収入の15%相当額を平成27年度に徴収手数料として支払うもの 開催予定：H27.5.1～7.26			

第350回宮城県議会（定例会）提出予算外議案の概要【教育委員会分】

議第 340 号議案

特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例及び県教育委員会教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部を改正する条例

知事等の給与を改定するため、所要の改正を行おうとするもの
施行 公布の日等
所管 人事課，教育庁総務課

○改正内容

期末手当の引上げ
年間支給月数

2. 9 5 月 分 → 3. 0 0 月 分 (+ 0. 0 5 月 分)

○対象者

知事，副知事，公営企業管理者，常勤監査委員及び教育長

議第 363 号議案

指定管理者の指定について（宮城県長沼ボート場）

宮城県長沼ボート場の指定管理者を指定することについて、
地方自治法の定めるところにより、議会の議決を受けようとするもの
所管 スポーツ健康課

○主要内容

- 1 指定しようとする団体 宮城県ボート協会
- 2 指 定 の 期 間 平成27年4月1日～
平成32年3月31日

議第 389 号議案

工事請負変更契約の締結について（宮城県拓桃医療療育センター及び宮城県立拓桃支援学校新築工事）

請 負 金 額 4,479,645,600 円 → 4,524,334,920 円
契約の相手方 大成・橋本店・同事特定建設工事共同企業体
所管 障害福祉課, 施設整備課

- 議 決 日 平成25年10月3日 議第251号議案
- 第一回変更 平成26年3月20日 議第160号議案
- 第二回変更 平成26年10月16日 議第290号議案
- 変更の理由 施工内容の変更による請負金額の変更

議第 395 号議案

工事請負変更契約の締結について（宮城県登米総合産業高等学校（仮称）校舎等新築工事（その1））

請 負 金 額 1,511,989,200 円 → 1,577,849,760 円
契約の相手方 渡辺土建・浅野工務店特定建設工事共同企業体
所管 施設整備課

- 議 決 日 平成25年12月13日 議第311号議案
- 第一回変更 平成26年2月27日提出 報告第83号
- 第二回変更 平成26年7月3日 議第213号議案
- 変更の理由 施工内容の変更による請負金額の変更

議第 396 号議案

工事請負変更契約の締結について（宮城県登米総合産業高等学校（仮称）校舎等新築工事（その2））

請 負 金 額 1,340,600,760 円 → 1,397,188,440 円
契約の相手方 太田組・只野組建設工事共同企業体
所管 施設整備課

- 議 決 日 平成25年12月13日 議第312号議案
- 第一回変更 平成26年2月27日提出 報告第84号
- 第二回変更 平成26年7月3日 議第214号議案
- 変更の理由 施工内容の変更による請負金額の変更

第1号議案

平成28年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について

平成28年度宮城県立高等学校入学者選抜方針を別紙のとおり定める。

平成26年12月17日提出

宮城県教育委員会教育長 高橋 仁

(別 紙)

平成28年度宮城県立高等学校入学者選抜方針

宮城県立高等学校における入学者選抜は、高等学校及び中学校における教育の目的の実現及び健全な教育の推進を期し、公正かつ適正な選抜方法と選抜尺度により厳正に行うものとする。

1 基本原則

- (1) 各高等学校長は、その教育を受けるに足る多様な能力と適性等を積極的に評価し、選抜するものとする。
- (2) 出願事務及び選抜事務の厳正を期するため、中学校にあつては調査書等作成のための委員会を、高等学校にあつては選抜のための委員会を設置するものとする。

2 前期選抜

- (1) すべての高等学校は、学校・学科の特色に応じて、前期選抜を実施する。選抜に当たって、高等学校長は、原則として、調査書、その他必要な書類、学校独自検査の結果及び学力検査の結果に基づいて総合的に審査するものとする。各高等学校は、学校独自検査及び学力検査の満点及び総点を適宜定める。
- (2) 学校独自検査
学校独自検査は、面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）、作文等の中から一つ以上実施する。
- (3) 学力検査
ア 学力検査の実施教科は、国語、数学及び英語とする。
イ 学力検査の内容は、中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的なものを重視するとともに、生徒の多様な能力・適性等が評価できる適切な質と分量の問題になるよう配慮するものとする。

3 後期選抜

- (1) すべての高等学校は、学校・学科の特色に応じて、後期選抜を実施する。選抜に当たって、高等学校長は、原則として、調査書、その他必要な書類及び学力検査の結果に基づいて総合的に審査するものとする。
この場合、次のア～ウのいずれか一つ又は複数を実施して、その結果を選抜の資料に加えることができる。
ア 面接
イ 実技（体育及び美術に関する学科の場合）
ウ 一部教科の得点を倍にする等の傾斜配点
また、必要に応じその他の資料を加えることができる。

(2) 学力検査

ア 学力検査の実施教科は、国語、社会、数学、理科及び英語とする。

イ 学力検査の内容は、中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的なものを重視するとともに、生徒の多様な能力・適性等が評価できる適切な質と分量の問題になるよう配慮するものとする。

4 第二次募集

合格者数が、募集定員に満たない場合においては、第二次募集を行うものとする。選抜に当たって、高等学校長は、調査書のみの審査、あるいは調査書に、第二次募集の学力検査、面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）、作文のいずれか一つ又は複数の結果を合わせた審査を行うことができる。

5 連携型中高一貫教育に関する選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校は、連携型中高一貫教育を実施する中学校の卒業生を対象とした選抜を実施する。選抜に当たって、当該高等学校長は、原則として、調査書、その他必要な書類及び学力検査（前期選抜に準じる。）、面接等の結果に基づいて総合的に審査するものとする。

6 社会人特別選抜

定時制課程の学科においては、前期選抜において社会人を対象とした選抜を行うことができる。当該高等学校長は、学力検査について、弾力的に対応することができるものとする。

7 通信制課程に関する選抜

当該高等学校長は上記によらず、選抜を行うことができるものとする。

(参 考)

平成28年度宮城県立高等学校入学者選抜日程

前期選抜・連携型中高一貫教育に関する選抜

実 施 日 平成28年 2月 3日 (水)

合格発表日 平成28年 2月12日 (金)

後期選抜

実 施 日 平成28年 3月 9日 (水)

合格発表日 平成28年 3月16日 (水)

県立学校における在校時間の状況について

～平成24年9月から平成26年8月までの在校時間の年間比較～

1 趣 旨

教職員の健康管理を図るため「宮城県教育委員会における職員に対する健康管理対策実施要領」を策定し、平成24年9月から正規の勤務時間外における在校時間等の把握に努めている。
 健康管理対策実施要領で定める基準（月80時間を超えた者、月45時間超を3月以上連続した者、所属長が健康への配慮が必要と認める者）に該当し、希望する者については指定医師による面接を実施し、自己の健康管理につなげている。
 本資料は、平成24年9月の施行時からの2年間分の状況を年比較し、取りまとめたものである。

2 正規の勤務時間外における月80時間超報告者について

(1) 全体報告者数

(単位：人，%)

年月等 校種	学校数			①平成24年9月～平成25年8月		②平成25年9月～平成26年8月		比較増減	
	H24	H25	H26	実人数	全職員に対する割合	実人数	全職員に対する割合	実人数	全職員に対する割合
高等学校	73	73	72	1,576	38.3	1,557	38.1	▲19	▲0.2
中学校	2	2	2	24	66.7	26	66.7	2	0
特別支援学校	17	17	18	40	2.6	43	2.6	3	0
合計	92	92	92	1,640	28.8	1,626	28.2	▲14	▲0.6

※ 校種は8月に在籍している所属（前年度退職者については前年度末の校種で集計）

※ 下表の各月報告者の人数は実人数だが、年合計では重複する教職員がいるため延べ人数となり、(1)全体報告者数の実人数とは異なる

①平成24年9月～平成25年8月

※割合…職員数（校種別）に対する割合、小数点第二位四捨五入（単位：人，%）

年月等 校種	H24 職員数 (A)	H24.9		H24.10		H24.11		H24.12		H25.1		H25.2		H25.3	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
高等学校	4,131	612	14.8	1,014	24.5	511	12.4	447	10.8	457	11.1	208	5.0	462	11.2
中学校	32	14	43.8	15	46.9	10	31.3	6	18.8	14	43.8	9	28.1	12	37.5
特別支援学校	1,545	7	0.5	10	0.6	2	0.1	1	0.1	1	0.1	4	0.3	3	0.2
合計	5,708	633	11.1	1,039	18.2	523	9.2	454	8.0	472	8.3	221	3.9	477	8.4

年月等 校種	H25 職員数 (A)	H25.4		H25.5		H25.6		H25.7		H25.8		合計		月平均 人数
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	延べ人数		
高等学校	4,111	717	17.4	1,070	26.0	641	15.6	838	20.4	469	11.4	7,446	621	
中学校	36	13	36.1	17	47.2	14	38.9	14	38.9	6	16.7	144	12	
特別支援学校	1,545	12	0.8	15	1.0	8	0.5	10	0.6	0	0.0	73	6	
合計	5,692	742	13.0	1,102	19.4	663	11.6	862	15.1	475	8.3	7,663	639	

☐ 最多人数・割合

②平成25年9月～平成26年8月

※割合…職員数（校種別）に対する割合、小数点第二位四捨五入（単位：人，%）

年月等 校種	H25 職員数 (A)	H25.9		H25.10		H25.11		H25.12		H26.1		H26.2		H26.3	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
高等学校	4,111	493	12.0	974	23.7	610	14.8	433	10.5	522	12.7	193	4.7	503	12.2
中学校	36	13	36.1	20	55.6	10	27.8	6	16.7	11	30.6	7	19.4	8	22.2
特別支援学校	1,545	7	0.5	10	0.6	0	0.0	0	0.0	1	0.1	3	0.2	5	0.3
合計	5,692	513	9.0	1,004	17.6	620	10.9	439	7.7	534	9.4	203	3.6	516	9.1

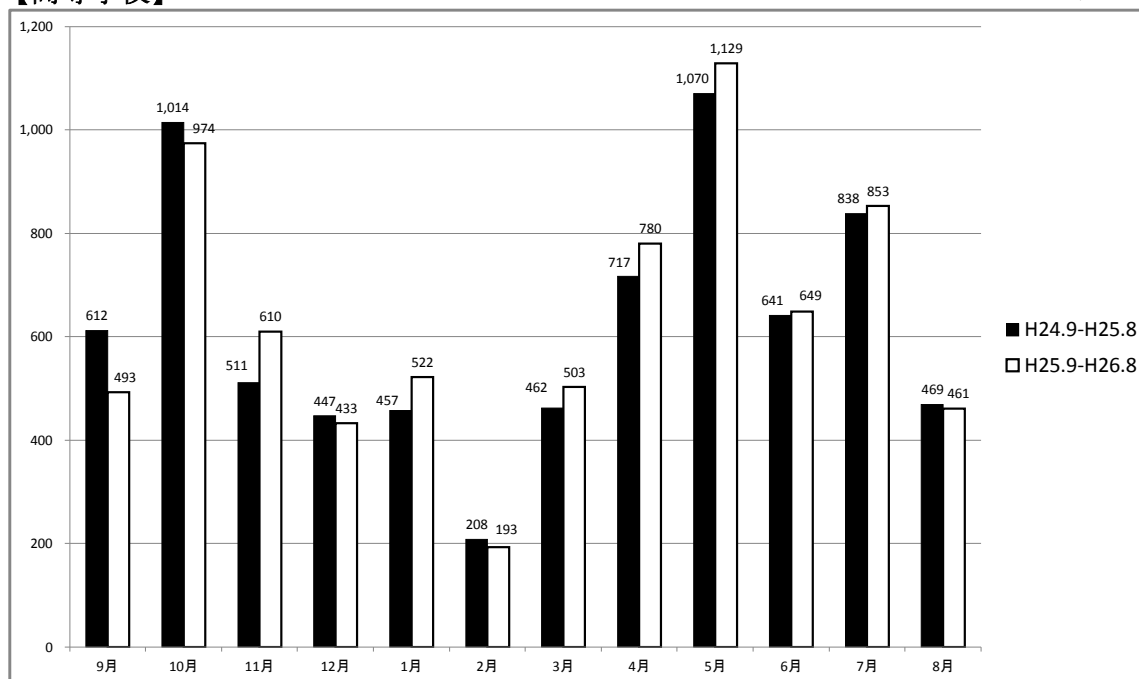
年月等 校種	H26 職員数 (A)	H26.4		H26.5		H26.6		H26.7		H26.8		合計		月平均 人数
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	延べ人数		
高等学校	4,082	780	19.1	1,129	27.7	649	15.9	853	20.9	461	11.3	7,600	633	
中学校	39	16	41.0	19	48.7	11	28.2	10	25.6	6	15.4	137	12	
特別支援学校	1,645	15	0.9	13	0.8	17	1.0	4	0.2	0	0.0	75	6	
合計	5,766	811	14.1	1,161	20.1	677	11.7	867	15.0	467	8.1	7,812	651	

☐ 最多人数・割合

(2) 校種別月80時間超報告者数

【高等学校】

(単位：人)



①平成24年9月～平成25年8月

(A)(B) 単位：人

	H24.9	H24.10	H24.11	H24.12	H25.1	H25.2	H25.3	H25.4	H25.5	H25.6	H25.7	H25.8	延べ合計
在職者数(A)	4,131	4,131	4,131	4,131	4,131	4,131	4,131	4,111	4,111	4,111	4,111	4,111	49,472
報告者数(B)	612	1,014	511	447	457	208	462	717	1,070	641	838	469	7,446
(B)/(A)	14.8%	24.5%	12.4%	10.8%	11.1%	5.0%	11.2%	17.4%	26.0%	15.6%	20.4%	11.4%	15.1%

②平成25年9月～平成26年8月

(A)(B) 単位：人

	H25.9	H25.10	H25.11	H25.12	H26.1	H26.2	H26.3	H26.4	H26.5	H26.6	H26.7	H26.8	延べ合計
在職者数(A)	4,111	4,111	4,111	4,111	4,111	4,111	4,111	4,082	4,082	4,082	4,082	4,082	49,187
報告者数(B)	493	974	610	433	522	193	503	780	1,129	649	853	461	7,600
(B)/(A)	12.0%	23.7%	14.8%	10.5%	12.7%	4.7%	12.2%	19.1%	27.7%	15.9%	20.9%	11.3%	15.5%

報告者数比較増減

単位：人

報告月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
②報告者数(B)－①報告者数(B)	▲119	▲40	99	▲14	65	▲15	41	63	59	8	15	▲8	154

〈 傾 向 〉

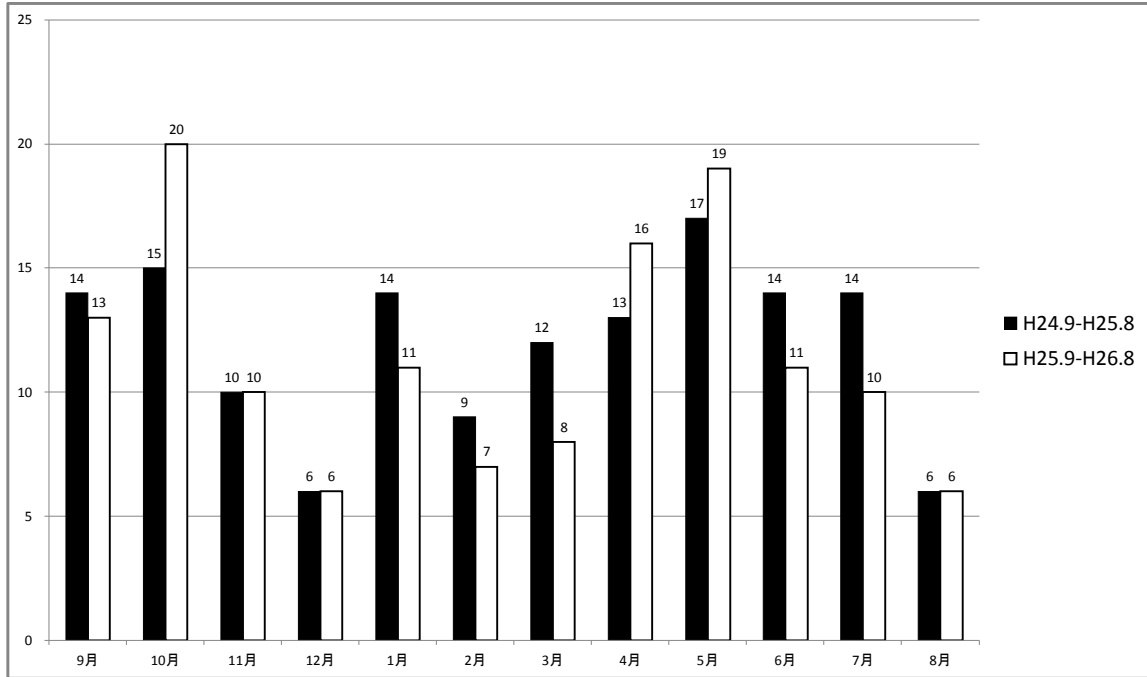
年間延べ報告者数は154人増加している。(7,446人→7,600人)
 実人数は19人減少している。(1,576人→1,557人 P1参照)
 実人数は減少しているが、全職員に対する割合は0.2%の減少で差異は小さく、2年を通して同傾向である。

2年連続して5月が最多報告月となった。
 10月と5月に大きなピークがあり、職員の約4人に1人が月80時間超えに該当している。
 平成24年9月～平成25年8月の最多報告月 平成25年5月 1,070人(全職員の26.0%)
 平成25年9月～平成26年8月の最多報告月 平成26年5月 1,129人(全職員の27.7%)

従事内容は「部活動・課外活動指導」が多くみられた。
 平成25年9月～平成26年8月は休日が1年目より2日多かったことにより、休日の部活動指導等のための報告者数が増加したと考えられる。
 2年を通し、高等学校では、実人数ベースで約38%の職員が月80時間超えに該当している。(P1参照)

【中学校】

(単位：人)



①平成24年9月～平成25年8月

(A)(B) 単位：人

	H24.9	H24.10	H24.11	H24.12	H25.1	H25.2	H25.3	H25.4	H25.5	H25.6	H25.7	H25.8	延べ合計
在職者数(A)	32	32	32	32	32	32	32	36	36	36	36	36	404
報告者数(B)	14	15	10	6	14	9	12	13	17	14	14	6	144
(B)/(A)	43.8%	46.9%	31.3%	18.8%	43.8%	28.1%	37.5%	36.1%	47.2%	38.9%	38.9%	16.7%	35.6%

②平成25年9月～平成26年8月

(A)(B) 単位：人

	H25.9	H25.10	H25.11	H25.12	H26.1	H26.2	H26.3	H26.4	H26.5	H26.6	H26.7	H26.8	延べ合計
在職者数(A)	36	36	36	36	36	36	36	39	39	39	39	39	447
報告者数(B)	13	20	10	6	11	7	8	16	19	11	10	6	137
(B)/(A)	36.1%	55.6%	27.8%	16.7%	30.6%	19.4%	22.2%	41.0%	48.7%	28.2%	25.6%	15.4%	30.6%

報告者数比較増減

単位：人

報告月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
②報告者数(B)－①報告者数(B)	▲1	5	0	0	▲3	▲2	▲4	3	2	▲3	▲4	0	▲7

〈 傾 向 〉

年間延べ報告者数は7人減少している。(144人→137人)

実人数は2人増加している。(24人→26人 P1参照)

実人数は増加しているが、全職員に対する割合の差異はなく、2年を通して同傾向である。

10月と5月に大きなピークがあり、職員の約半数が月80時間超えに該当している。

平成24年9月～平成25年8月の最多報告月 平成25年5月 17人(全職員の47.2%)

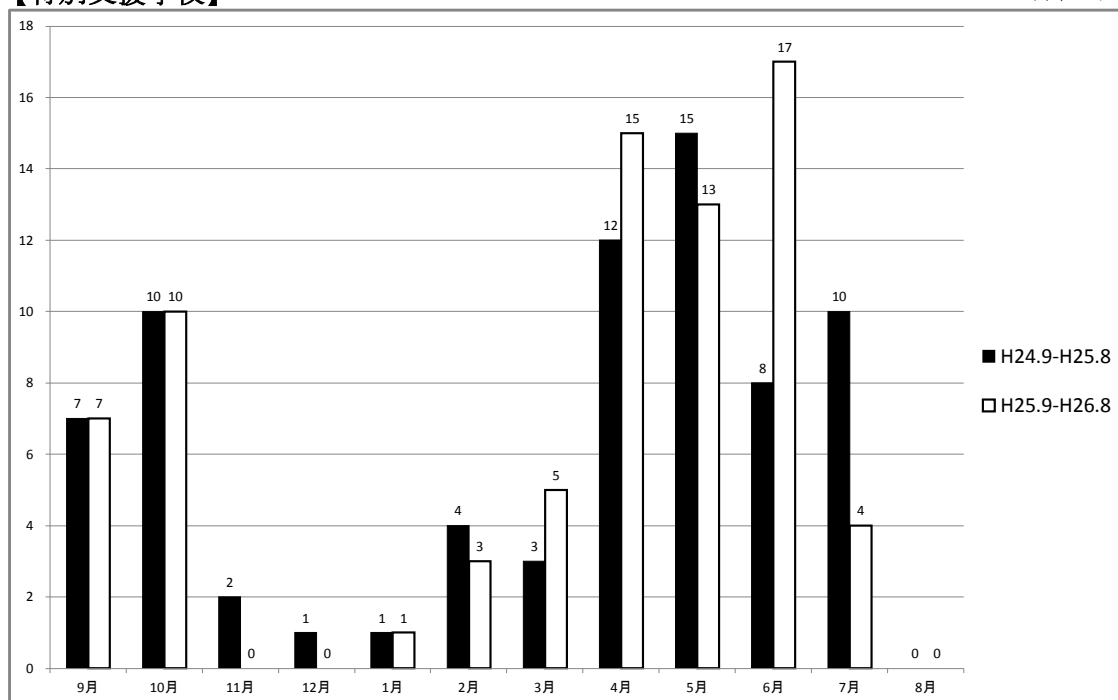
平成25年9月～平成26年8月の最多報告月 平成25年10月 20人(全職員の55.6%)

従事内容は「部活動・課外活動指導」が多くみられた。

2年を通し、中学校では実人数ベースで66.7%の職員が月80時間超えに該当している。(P1参照)

【特別支援学校】

(単位：人)



①平成24年9月～平成25年8月

(A)(B) 単位：人

	H24.9	H24.10	H24.11	H24.12	H25.1	H25.2	H25.3	H25.4	H25.5	H25.6	H25.7	H25.8	延べ合計
在職者数(A)	1,545	1,545	1,545	1,545	1,545	1,545	1,545	1,545	1,545	1,545	1,545	1,545	18,540
報告者数(B)	7	10	2	1	1	4	3	12	15	8	10	0	73
(B)/(A)	0.5%	0.6%	0.1%	0.1%	0.1%	0.3%	0.2%	0.8%	1.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.4%

②平成25年9月～平成26年8月

(A)(B) 単位：人

	H25.9	H25.10	H25.11	H25.12	H26.1	H26.2	H26.3	H26.4	H26.5	H26.6	H26.7	H26.8	延べ合計
在職者数(A)	1,545	1,545	1,545	1,545	1,545	1,545	1,545	1,645	1,645	1,645	1,645	1,645	19,040
報告者数(B)	7	10	0	0	1	3	5	15	13	17	4	0	75
(B)/(A)	0.5%	0.6%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	0.3%	0.9%	0.8%	1.0%	0.2%	0.0%	0.4%

報告者数比較増減

単位：人

報告月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
②報告者数(B)－①報告者数(B)	0	0	▲2	▲1	0	▲1	2	3	▲2	9	▲6	0	2

〈 傾 向 〉

年間延べ報告者数は2人増加している。(73人→75人)
 実人数は3人増加している。(40人→43人 P1参照)
 実人数は増加しているが、全職員に対する割合の差異はなく、2年を通して同傾向である。
 報告者数は各月10人前後で、報告者が少ない傾向は変わらない。

長期休業のある8月や12月等、報告者がいない月もあった。
 報告数が増加する傾向は高等学校や中学校とは異なり、年度当初に集中している。
 平成24年9月～平成25年8月の最多報告月 平成25年5月 15人(全職員の1.0%)
 平成25年9月～平成26年8月の最多報告月 平成26年6月 17人(全職員の1.0%)

従事内容は「その他」が多くみられた。主な内容は校舎の開錠・施錠業務や舎監業務である。
 2年を通し、特別支援学校では実人数ベースで2.6%の職員が月80時間超えに該当している。
 (P1参照)

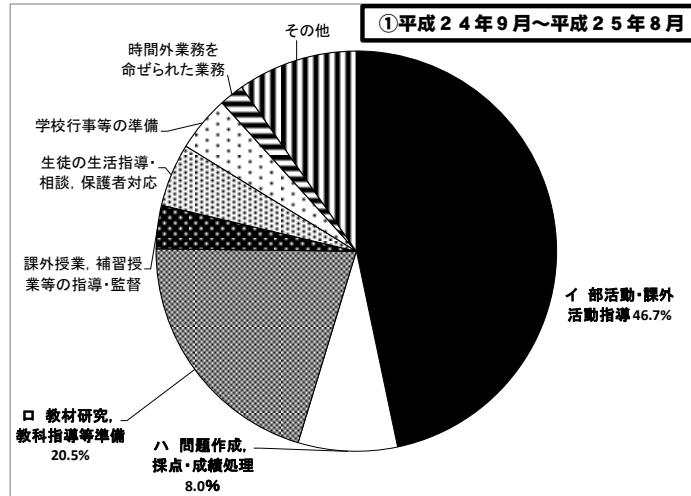
(3) 校種別従事内容

【高等学校】

①平成24年9月～平成25年8月
※複数回答あり (単位%)

従事内容	年割合
部活動・課外活動指導	46.7
問題作成, 採点・成績処理	8.0
教材研究, 教科指導等準備	20.5
課外授業, 補習授業等の指導・監督	3.5
生徒の生活指導・相談, 保護者対応	5.1
学校行事等の準備	4.5
時間外業務を命ぜられた業務	2.0
その他	9.7
計	100.0

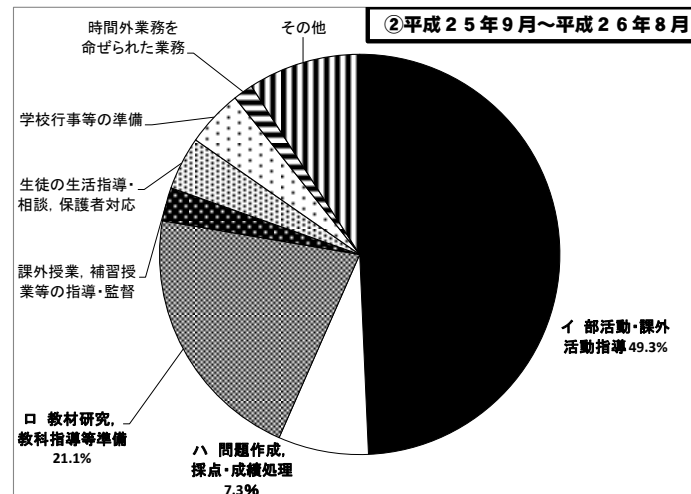
■その他の従事内容
進路指導, 校務分掌業務, 入試業務, 高文連, 高体連, 教育研究会 他



②平成25年9月～平成26年8月
※複数回答あり (単位%)

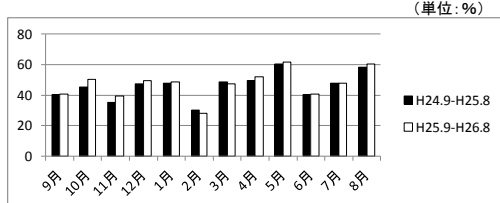
従事内容	年割合
部活動・課外活動指導	49.3
問題作成, 採点・成績処理	7.3
教材研究, 教科指導等準備	21.1
課外授業, 補習授業等の指導・監督	2.7
生徒の生活指導・相談, 保護者対応	4.3
学校行事等の準備	4.6
時間外業務を命ぜられた業務	1.6
その他	9.1
計	100.0

■その他の従事内容
進路指導, 校務分掌業務, 入試業務, 高文連, 高体連, 教育研究会 他

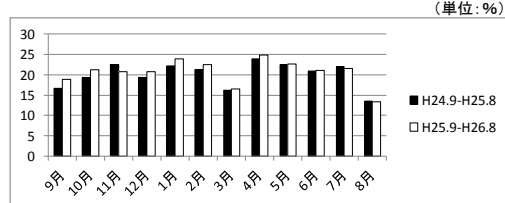


上位従事内容報告割合 ※その他の報告除く

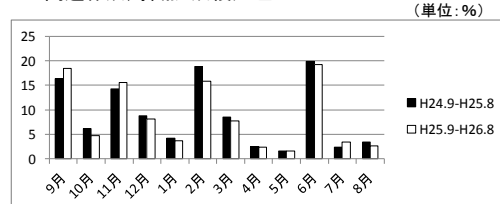
イ 部活動・課外活動指導



ロ 教材研究・教科指導等準備



ハ 問題作成, 採点・成績処理



<傾向・分析>

「部活動・課外活動指導」と「教材研究・教科指導等準備」の割合が通年で高い。

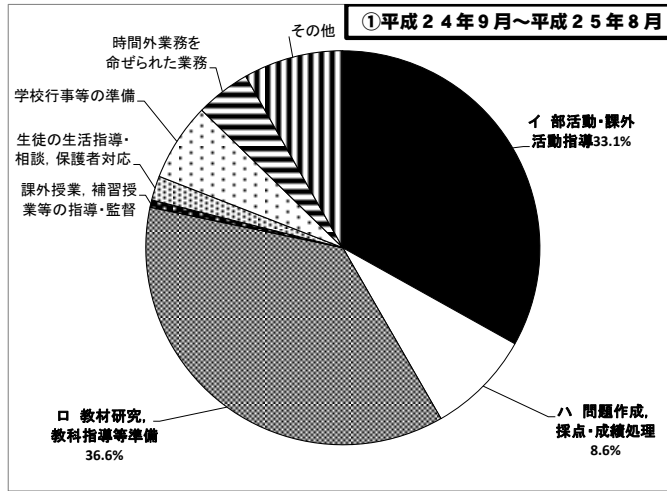
- ・「部活動・課外活動指導」
通年で割合が高いが、特に各種大会等が開催される5月や10月、夏季休業中の強化合宿等が実施される8月の割合が高い。
- ・「教材研究・教科指導等準備」
通年で割合が高いが、特に年度始めの割合が高くなっている。長期休業がある3月や8月は割合が低い。

【中学校】

①平成24年9月～平成25年8月
※複数回答あり (単位%)

従事内容	年割合
部活動・課外活動指導	33.1
問題作成, 採点・成績処理	8.6
教材研究, 教科指導等準備	36.6
課外授業, 補習授業等の指導・監督	0.6
生徒の生活指導・相談, 保護者対応	2.0
学校行事等の準備	6.4
時間外業務を命ぜられた業務	4.5
その他	8.2
計	100.0

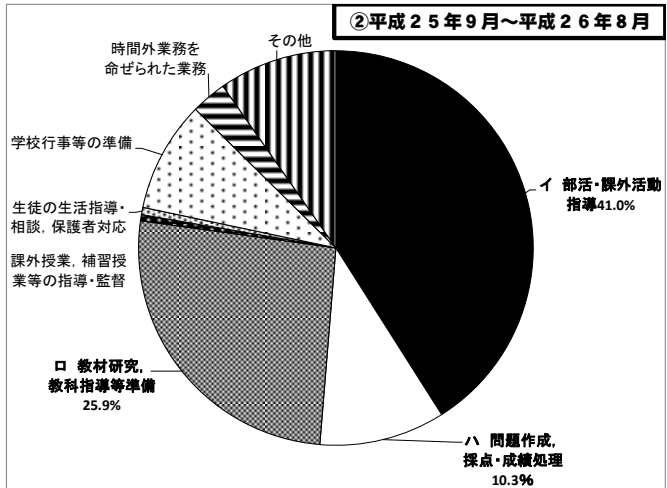
■その他の従事内容
学校説明会, 入試業務, 資料作成, 中体連, 教育研究会 記念行事業務 他



②平成25年9月～平成26年8月
※複数回答あり (単位%)

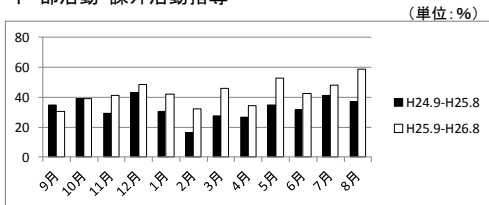
従事内容	年割合
部活動・課外活動指導	41.0
問題作成, 採点・成績処理	10.3
教材研究, 教科指導等準備	25.9
課外授業, 補習授業等の指導・監督	0.5
生徒の生活指導・相談, 保護者対応	0.6
学校行事等の準備	9.1
時間外業務を命ぜられた業務	2.9
その他	9.7
計	100.0

■その他の従事内容
学校説明会, 入試業務, 資料作成, 中体連, 教育研究会 他

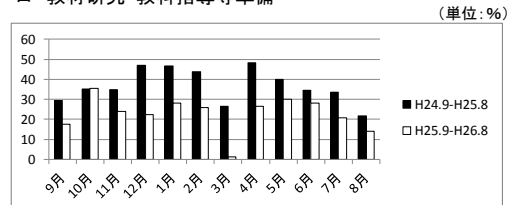


上位従事内容報告割合 ※その他の報告除く

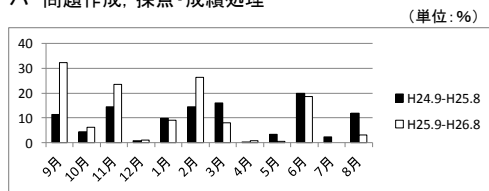
イ 部活動・課外活動指導



ロ 教材研究・教科指導等準備



ハ 問題作成, 採点・成績処理



<傾向・分析>

※県立2校の約30人の職員が対象であるため, 割合の変動が大きい。

「部活動・課外活動指導」と「教材研究・教科指導等準備」の割合が通年で高い。

・「部活動・課外活動指導」
通年で割合が高いが, 特に各種大会等が開催される5月や10月, 夏季休業中の東北大会・全国大会の引率によって8月の割合が高い。

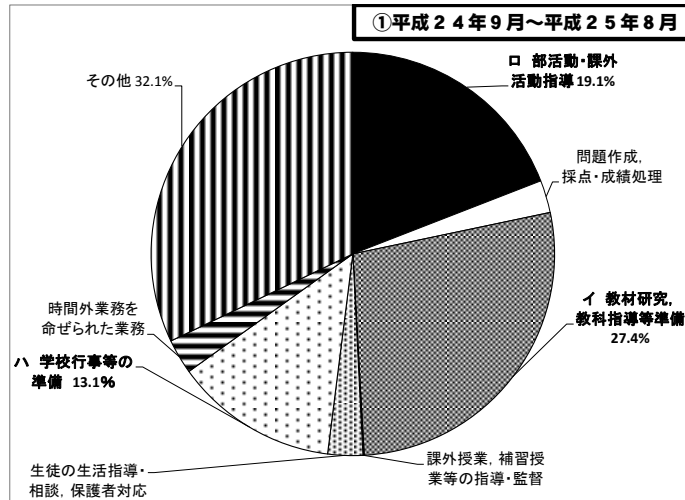
・「教材研究・教科指導等準備」
通年で割合が高いが, 特に年度始めの割合が高くなっている。長期休業がある3月や8月は割合が低い。

【特別支援学校】

①平成24年9月～平成25年8月
※複数回答あり (単位%)

従事内容	年割合
部活動・課外活動指導	19.1
問題作成, 採点・成績処理	2.6
教材研究, 教科指導等準備	27.4
課外授業, 補習授業等の指導・監督	0.1
生徒の生活指導・相談, 保護者対応	2.8
学校行事等の準備	13.1
時間外業務を命ぜられた業務	2.8
その他	32.1
計	100.0

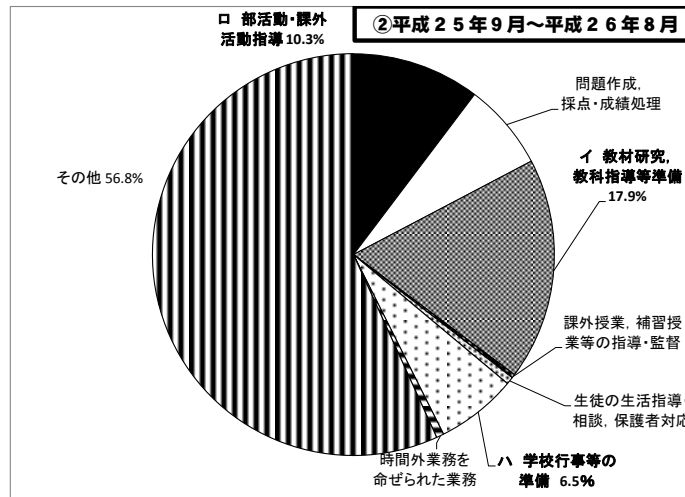
■その他の従事内容
危機管理, 入試業務, 資料作成, 舎監, 校務分掌業務 他



②平成25年9月～平成26年8月
※複数回答あり (単位%)

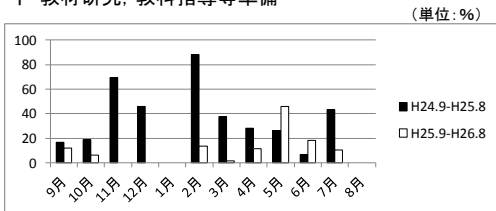
従事内容	年割合
部活動・課外活動指導	10.3
問題作成, 採点・成績処理	7.0
教材研究, 教科指導等準備	17.9
課外授業, 補習授業等の指導・監督	0.3
生徒の生活指導・相談, 保護者対応	0.6
学校行事等の準備	6.5
時間外業務を命ぜられた業務	0.6
その他	56.8
計	100.0

■その他の従事内容
危機管理, 入試業務, 資料作成, 舎監, 校務分掌業務 他

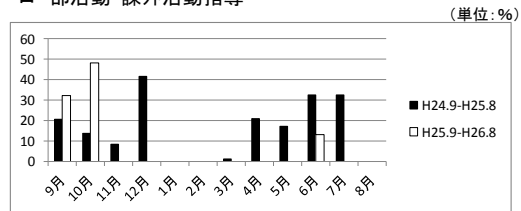


上位従事内容報告割合 ※その他の報告除く

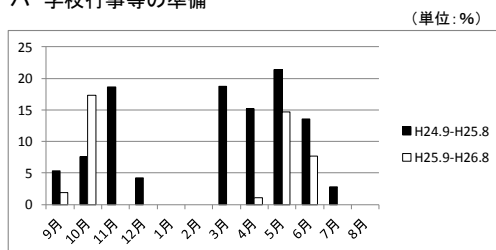
イ 教材研究, 教科指導等準備



ロ 部活動・課外活動指導



ハ 学校行事等の準備



<傾向・分析>

※月80時間超報告者は毎月10人前後であるため、割合の変動が大きい。

「教材研究・教科指導等準備」の割合が高いが、業務内容にばらつきがあり、全体では「その他」の割合が1番高い。

その他の主な従事内容は、副校長・教頭・主幹教諭による校舎の開錠・施錠業務や、教職員による寄宿舎の舎監業務となっている。

3 正規の勤務時間外における月45時間超を3月連続報告者について

(単位:人)

年月・報告人数 校種	※①平成24年11月～平成25年8月	②平成25年9月～平成26年8月
	報告人数(延べ)	報告人数(延べ)
高等学校	10,276 <1,027>	12,537 <1,045>
中学校	183 < 18>	220 < 18>
特別支援学校	377 < 38>	434 < 36>
合計	10,836 <1,083>	13,191 <1,099>

比較期間が異なるため、年間比較はできないが、月平均では同傾向である。

※在校時間記録は平成24年9月からの集計であり3月連続報告者は平成24年11月から集計している。

※ < > は月平均人数

4 所属長が健康への配慮が必要と認める職員について

(単位:人)

年月・報告人数 校種	①平成24年9月～平成25年8月	②平成25年9月～平成26年8月
	報告人数(延べ)	報告人数(延べ)
高等学校	59	52
中学校	0	0
特別支援学校	6	0
合計	65	52

(単位:人)

比較増減	
	▲ 7
	0
	▲ 6
	▲ 13

5 医師による面接指導等実施状況

※ 面接指導は労働安全衛生規則(第52条の3第1項・第52条の8第3項)に基づき、本人の申出により希望のあった者に対してのみ実施している。

①平成24年9月～平成25年8月

(単位:人)

希望月	H24.9	H24.10	H24.11	H24.12	H25.1	H25.2	H25.3	H25.4	H25.5	H25.6	H25.7	H25.8	計
実施者数	10	3	2	1	2	1	1	1	1	0	1	2	25
(内訳)													
月80時間超	4	3	1				1		1		1		11
月45時間超 3月連続			1	1	2	1						2	7
所属長配慮	6							1					7

②平成25年9月～平成26年8月

(単位:人)

希望月	H25.9	H25.10	H25.11	H25.12	H26.1	H26.2	H26.3	H26.4	H26.5	H26.6	H26.7	H26.8	計
実施者数	1	2	0	3	0	2	0	0	5	0	0	2	15
(内訳)													
月80時間超	1	2							3			1	7
月45時間超 3月連続													
所属長配慮				3		2			2			1	8

月実施者数比較増減

(単位:人)

報告月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
②実施者数-①実施者数	▲ 9	▲ 1	▲ 2	2	▲ 2	1	▲ 1	▲ 1	4	0	▲ 1	0	▲ 10

<傾向>

平成24年9月～平成25年8月 実施者 25人(面接指導21人 文書指導4人)

平成25年9月～平成26年8月 実施者 15人(面接指導15人)

実施者は減少した。導入月の平成24年9月が最多実施月となった。

指導を受けた者のうち在校時間が長時間になったことにより健康に障害があった職員はいなかった。

6 教職員の多忙化及び健康管理上の課題と今後の取組

(1) 多忙化解消への対応について

教職員の多忙化解消の一環として、平成24年9月から正規の勤務時間外における在校時間等の把握に努めるとともに、教育庁全体の課題として在校時間の縮減及び教職員の多忙化解消へ向けた取組を実施してきたが、平成24年9月から平成26年8月までの在校時間の調査結果によれば、勤務時間外における月80時間を超える報告者の実人数、全職員に占める割合及び従事内容の割合はほとんど変化が見られなかった。このことを踏まえ、これまでの取組内容及びその成果を検証する。

(2) 多忙化解消の課題と今後の取組

イ 部活動・課外活動指導

(イ) 課題

- 部活動は主な時間が、勤務時間外となり、従事時間の超過につながる。教員の負担軽減のためには外部指導者の効果的な活用等が考えられるが、生徒の安全管理や身分保障、学校との関わり方、予算措置等において課題がある。

(ロ) これまで実施した対策とその成果

- 平成24年度から部活動の在り方検討会議を設置し、科学的なトレーニングの見地から、適切な休養日を設定することの大切さを平成25年2月に提言した。平成26年度運動部活動の実態調査では、週1日以上休養日を設定している学校の割合は、中学校では98.9%（平成24年度調査97.2%）、高等学校では96.6%（平成24年度調査93.8%）となっており、いずれも増加傾向にある。
- 文部科学省による委託事業として外部指導者を派遣し、運動部活動の指導者派遣事業を実施している。平成25年度は、市町村立中学校には104校235人、県立高校には47校103人の外部指導者を派遣した。
- 平成26年度から、県内4市町（気仙沼市、塩竈市、七ヶ浜町、富谷町）と連携して運動部活動の実践研究に取り組み、実際の運動部活動の課題等を研究している。

(ハ) 今後の対応方針

- 今後も運動部活動の工夫改善について研究するとともに、休養日設定の趣旨について教育関係諸会議や研修会等をとおして、継続して周知・啓発を進めていく。

ロ 教材研究・教科等準備

(イ) 課題

- よりよい授業実践を目指し、教材研究・教科等準備に取り組む必要があるが、勤務時間内に生徒指導や保護者対応等のさまざまな業務を行う必要が多いことから、勤務時間外に教材研究・教科等準備に取り組まざるを得ない状況となっている。
- 教科指導や生徒指導については妥協の許されない業務である。また、生徒の実態に応じた教材研究が必要であるが、教材準備に係る事務の省力化にも一定の限度がある。

(ロ) これまで実施した対策とその成果

- 校内での教科会の活性化、教育課程研究集会等の各種研修会や各教科教育研究会での情報交換等による教材の共有化等の事務の効率化に取り組むとともに、スクールカウンセラー（平成26年度全県立高校へ配置）、スクールソーシャルワーカー（平成26年度県立高校13校へ配置）等の配置による業務支援を行ってきた。

(ハ) 今後の対応方針

- 教材の共有化等による教材準備に係る一層の事務の効率化を図るとともに、スクールカウンセラー等の配置による業務支援を行う。

ハ 校務処理等

(イ) 課題

- 学校や児童生徒に関する様々な情報を紙媒体で作成し教職員間で共有しており、資料の作成・共有に時間を要するとともに、各学校ごとに作成の様式が異なるため、異動するごとに再度スキルの習得に時間を要している。
- 行政からの様々な調査や会議の開催により時間が取られ、教材研究・教科等準備が勤務時間外に取り組むなど一定の影響が出る場合もある。

(ロ) これまで実施した対策とその成果

- 校務のICT化による効率化や県立学校間で異なる事務処理の統一化を図るため、平成24年度に県立高校1校、平成25年度に県立高校8校に、先行導入校として学校運営支援統合システム(※)のうち主に成績処理を行う教務支援システムを導入した。
- 先行導入校において導入前後の成績処理業務に要した業務時間を調査した結果、システム導入後間もないにも関わらず、業務時間の縮減効果が認められた。
- 会議や調査の整理統合を図ったほか、年間スケジュールを作成するなど、調査や会議等の精選を行った。

(ハ) 今後の対応方針

- 教務支援システムについては、平成26年度21校に導入し、平成27年度には県立高校全校に導入する予定である。また、校務支援システムについても、平成26年度に開発するとともに9校導入し、平成27年度には県立高校に全校展開する予定である。
- 学校運営支援統合システムの全校展開により、さらなる業務縮減に努める。

(※) 学校運営支援統合システムとは、主に成績処理を行う「教務支援システム」と、旅費申請や学校徴収金管理などの校務処理とグループウェア機能を併せ持つ「校務支援システム」の2つをまとめたシステムの総称のこと。

(3) 教職員の健康管理上の課題と今後の取組

(イ) 課題

- 月80時間超の報告に該当する教職員数は変化が見られず、健康への影響が懸念されることから、特定の教職員に対するケアやサポート等も含め、教職員全体へのさらなる健康管理対策が必要である。

(ロ) これまで実施した対策とその成果

- 教職員の在校時間調査集計結果を衛生担当者会議等の各種会議で周知するとともに、先進的な取組事例を共有し在校時間の縮減を図った。
- 健康管理医や衛生委員会等を活用し、在校時間の縮減に向けた対応策の検討をするよう学校に促した。
- 該当者に対する健康管理医による面接指導の積極的な働きかけを促した。
- 心身の健康管理のセルフケアの必要性から個別面談やストレスコントロールセミナー等のメンタルヘルス対策事業を継続して実施した。
- 管理職を対象とした過重労働対策セミナーやメンタルヘルス研修会等でラインケア(管理職が行う職場環境等の改善と相談への対応)の充実を図った。
- 健康障害のリスクが高い教職員に対して関係課の職員が学校訪問を行い、健康状態を確認するために面談を実施した。(※)
- これらの取組により、医師による面接において、在校時間が長時間になったことによる健康に障害があった職員はおらず、健康障害の未然防止につなげることができた。

(ハ) 今後の対応方針

- 引き続き在校時間の調査で長時間の在校時間報告者を把握し、健康障害の未然防止に努めていく。
- 縮減に向けて取組成果の出ている学校等を個別に調査し、その結果から解決策を教育庁全体として検討していく。
- 平成27年度実施予定の「ストレスチェック制度」や「健康調査」のデータを活用し傾向を把握して、健康管理対策を講じていく。

(※) 教職員との面談実施状況

在校時間の状況から、健康障害のリスクが高い職員と当該職員の所属管理職に対し、学校訪問を行い個別面談を実施した。

平成25年 実施者 8人 (高等学校 8校)
平成26年 実施者 9人 (高等学校 6校)

該当職員の様子	<p>○健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各々体調は良好の様子であった。 ・家族の理解、サポートを得て勤務出来ている職員が多く、適切なストレス解消法を身につけ、考査期間等の時間を利用してリフレッシュを図れている職員がほとんどであった。 <p>○「やりがい」や「充実感」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な役割を与えられるのも、自分のスキルアップと捉えるケースが多く、むしろやりがいを持ち、充実感を得ている様子がうかがえた。
管理職の把握状況 ・ 対応	<p>○環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職は良く状況を把握しており、本人のモチベーション維持に配慮し、見守りや職場環境を整備するなど、協体制を整えているところがほとんどであった。
医師による文書指導	<p>○医学的な見地から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新の健康診断結果と事前の自己チェック票をもとに、各個人宛に文書指導を実施した。 ・身体面と精神面から医学的な指導をするとともに、ワークライフバランスの重要性を助言した内容。
教育庁職員の助言	<p>○健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在校時間が長いことは仕事に熱心という面もあるが、長時間勤務は心身に不調をきたす原因となり得るので、公私のバランスや食生活への配慮、適度な運動を取り入れながら健康管理に注意願いたい。

7 在校時間が縮減した学校の主な取組状況

縮減校の取組事例

A 高校	<p>○健康管理医の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間在校者に対しての面談や血圧測定を依頼し、意識付けを図っている。 <p>○在校時間の縮減目標の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛生委員会における健康管理医から管理職への助言「在校時間の多い教職員に対する管理職による健康状況の日常の観察と具体的な対応」をもとに、毎月管理職から在校時間の多い教職員に対し、健康観察に加えて、勤務時間の縮減目標の設定の働きかけをしている。 <p>○振休取得の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振休の事前取得の促進をしている。
B 高校	<p>○業務分担の平準化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に管理職から各主任へ部会における進行管理や業務役割分担を計画的に行うよう指示している。 ・各主任は各職員の業務の進捗状況や悩んでいること等を直接聞き取りすることにより、一部の職員に業務が集中しないように調整している。 <p>○平日の完全下校時刻の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動終了後の生徒の完全下校を徹底したことにより、教職員の帰宅時間が早まっている。 <p>○管理職からの声掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メリハリをつけた勤務、困った時に助け合う雰囲気づくりをしている。
C 高校	<p>○部活動禁止期間の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査1週間前の部活動禁止を徹底している。 <p>○年休等取得の呼び掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職から積極的な休暇取得の呼び掛けをしている。 <p>○長時間在校職員に対する管理職からの個別指導</p> <p>○教務部職員からの帰宅の声掛け</p>
D 高校	<p>○「N o 残業D a y」の実施・徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月第3金曜日に設定し、早めの帰宅を職員に意識させている。 <p>○管理職への一定時刻以降の在校申出の徹底</p>
E 高校	<p>○会議時間短縮への工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に校務運営委員会等で十分に検討した上で職員会議に臨み、審議は協議事項のみ。連絡事項については質疑なしとして、会議時間を短縮している。
F 高校	<p>○教員のニーズに合った研修会等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から生徒指導に係る教員のニーズに合った研修会の開催や、組織的・計画的な対応等に取り組んだ結果、生徒指導に係る特別指導件数が減少している。

※ 増加校の主な要因

- ・部活動の練習試合や大会等の増加に伴う引率業務
- ・地域活動への参加に伴う引率業務
- ・震災関連の生徒交流や視察の受け入れ対応業務

8 まとめ

教職員の多忙化解消については、教育庁内に設置した多忙化解消ワーキンググループが、平成25年3月に取りまとめた、「教職員の在校時間の調査（健康管理面）」、「学校運営支援統合システムの構築」、「調査等の見直し・精選」、「部活動のあり方の適正化」など12項目の施策に取り組んできたところである。

平成24年9月から平成26年8月までの在校時間の調査結果によれば、月80時間を超える者の実人数や従事内容の割合にほとんど変化が見られなかったものの、前述の「学校運営支援統合システム」を先行導入した学校では、導入後間もないにも関わらず、業務時間の縮減効果が認められたとの成果もあることから、前述した「今後の対応方針」に着実に取り組むほか、今回の調査結果をもとに明らかとなった、縮減に向けた対策を積極的に実践している学校の取組事例を他の学校でも取り組んでもらえるよう紹介しながら、多忙化解消に努めることとする。また、業務にやりがいや充実感を見いだし、「多忙感」を感じない教職員も多いと考えられることから、疲労感なき疲労が蓄積されないよう健康管理面からも解消に取り組むこととする。

さらに、在校時間の状況に大きな変化が見られないことを重く受け止め、今年度、学校運営支援本部に設置された多忙化解消ワーキンググループにおいて、これまで学校運営支援本部が情報交換した現場の意見を踏まえつつ、施策の検証や縮減が進まない要因の確認を行いながら、更なる縮減策を検討していくこととする。

これらの取組により、教職員の「やりがい」にも配慮しつつ、在校時間の縮減を目指し、多忙化や多忙感の解消と教職員の健康管理に努めていきたい。

平成２７年度宮城県立中学校入学者選抜の出願者数について

1 出願期間 平成２６年１２月１日（月）～１２月５日（金）午後３時

2 募集定員 各校１０５人（男女）

3 出願者数及び出願倍率

校名	募集定員	出願者数	出願倍率
宮城県仙台二華中学校	１０５人（男女）	５４４人 (男２４５人, 女２９９人)	５．１８倍
宮城県古川黎明中学校	１０５人（男女）	２６７人 (男１１５人, 女１５２人)	２．５４倍

4 適性検査

(1) 実施日 平成２７年１月１０日（土）午前８時３０分～

(2) 会場 ○ 宮城県仙台二華中学校・高等学校

○ 宮城県古川黎明中学校・高等学校

(3) 内容 総合問題, 作文, 面接

(4) 結果通知 平成２７年１月１６日（金）午後４時発送

<参考>

平成２６年度宮城県立中学校入学者選抜の出願者数

校名	募集定員	出願者数	出願倍率
宮城県仙台二華中学校	１０５人（男女）	５３５人 (男２４０人, 女２９５人)	５．１０倍
宮城県古川黎明中学校	１０５人（男女）	２５４人 (男１０９人, 女１４５人)	２．４２倍

平成27年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況について

	H26.3月末	H26.7月末	H26.8月末	H26.9月末	H26.10月末	前年同月	増減 (当月-前年 同月)	H26.11月末
内定率	98.6%	—	—	43.0%	67.7%	62.6%	5.1%	83.2%
男子	98.9%	—	—	45.5%	69.6%	65.5%	20.4%	85.9%
女子	98.2%	—	—	39.7%	65.2%	58.8%	20.8%	79.6%
全国平均	96.6%	—	—	—	71.1%	64.1%	7.0%	—

内訳

卒業生	19,869	20,040	20,027	20,019	19,988	19,970	18	19,967	
進学希望者	14,786	14,727	14,771	14,811	14,872	14,833	39	14,963	
臨時的仕事希望者	241	58	68	75	86	86	0	109	
進路未定者	61	176	140	136	98	116	-18	83	
就職希望者	4,781	5,079	5,048	4,996	4,931	4,935	-4	4,808	
内訳	県内	4,069	4,465	4,289	4,189	4,112	4,207	-95	3,950
	県外	712	614	759	807	819	728	91	858
	職安・学校紹介	4,041	4,262	4,178	4,109	4,148	4,134	14	4,167
	縁故・自営	371	128	171	192	215	255	-40	214
	公務員	369	689	699	695	568	546	22	427
就職内定者	4,713	—	—	2,149	3,339	3,089	250	3,999	
内訳	県内	4,006	—	—	1,622	2,640	2,531	109	3,215
	県外	707	—	—	527	699	558	141	784
	職安・学校紹介	3,996	—	—	2,089	3,131	2,873	258	3,578
	縁故・自営	352	—	—	60	111	100	11	127
	公務員	365	—	—	0	97	116	-19	294
就職未内定者	68	—	—	2,833	1,592	1,846	-254	809	
月間受験者数	86	—	—	4,054	822	1,014	-192	641	

【11月末概況】※()内は前年同月

- ① 就職内定率 : 83.2% (78.9%)
- ② 進路希望の割合状況 : 進学 74.9% (74.5%) 就職 24.1% (24.5%)
 臨時的仕事 0.5% (0.5%) 未定 0.4% (0.6%)
- ③ 就職希望者の割合 : 県内 82.2% (85.5%) 県外 17.8% (14.5%)
- ④ 県内外の内定率 : 県内 81.4% (77.5%) 県外 91.4% (87.4%)
- ⑤ 内定者の割合 : 県内 80.4% (83.9%) 県外 19.6% (16.1%)
- ⑥ 学科別内定率

学科別内定率	普通科	農業科	工業科	商業科	水産科	家庭科	その他	総合学科
平成26年度	75.3%	87.5%	93.6%	84.3%	88.4%	81.0%	72.6%	86.8%
平成25年度	69.1%	86.7%	89.9%	82.5%	91.1%	67.7%	71.8%	83.4%

⑦地域別内定状況

地域別内定率	仙台	大和	石巻	塩釜	古川	大河原	白石	築館	迫	気仙沼
平成26年度	79.6%	89.4%	78.7%	78.3%	86.9%	84.5%	95.2%	88.4%	84.1%	89.6%
平成25年度	74.6%	76.7%	77.4%	74.8%	80.7%	80.4%	88.5%	88.5%	87.0%	86.7%

⑧宮城労働局発表 県内求人倍率(10月末現在)(職安学校紹介のみ、ただし支援学校・通信制含む)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
県内求人数	5,343	3,091	3,096	3,766	6,074	7,204	8,825
県内求職者数	4,441	3,843	3,836	3,114	3,504	3,520	4,229
求人倍率	1.20	0.80	0.81	1.21	1.73	2.05	2.55

平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果（宮城県分）について

1 調査概要

- (1) 調査期間 平成26年4月から7月末まで
 (2) 対象学年 全国の小5男女，中2男女全員（悉皆調査）

表1

	小学校5年生 男・女		中学校2年生 男・女	
	学校数（校）	調査児童数（人）	学校数（校）	調査生徒数（人）
宮城県	410	20,249	217	19,523
全国	20,658	1,090,132	10,481	1,055,154

※（調査方式）悉皆調査：平成20年度，平成21年度，平成25年度，平成26年度
 抽出調査：平成22年度，平成24年度
 （平成23年度は，大震災の発生により，調査は実施されていない）

(3) 調査事項及び内容

① 実技に関する調査…新体力テスト（8種目）

- 1) 握力 2) 上体起こし 3) 長座体前屈 4) 反復横とび 5) 持久走，20m シャトルラン
 6) 50m 走 7) 立ち幅とび 8) ソフトボール投げ，ハンドボール投げ
 ※ 5)について，中2男女はどちらか1種目を選択して行い，小5男女は20m シャトルランを行う。
 ※ 8)について，小5男女はソフトボール投げ，中2男女はハンドボール投げを行う。

② 質問紙調査

- 1) 児童生徒質問紙調査
 ・運動習慣，生活習慣等
 2) 学校質問紙調査
 ・子どもの体力向上に係る学校の取組等

2 結果概要

【実技に関する調査】

- (1) 平成26年度宮城県の体力合計点について ※（ ）は前年度との差

表2

		体力合計点								
		H22	順位	H24	順位	H25	順位	H26	順位	
小学校5年生	男子	宮城県	53.46(△0.36)	35	52.92(△0.54)	41	53.11(+0.19)	36	53.04(△0.07)	40
		全国	54.36(+0.17)		54.07(△0.29)		53.87(△0.20)		53.91(+0.04)	
		全国との差	△0.90		△1.15		△0.76		△0.87	
小学校5年生	女子	宮城県	54.30(△0.28)	28	54.24(△0.06)	32	54.10(△0.14)	32	54.57(+0.47)	33
		全国	54.89(+0.30)		54.85(△0.04)		54.70(△0.15)		55.01(+0.31)	
		全国との差	△0.59		△0.61		△0.60		△0.44	
中学校2年生	男子	宮城県	42.14(+0.19)	17	42.13(△0.01)	23	42.13(±0)	19	42.05(△0.08)	21
		全国	41.71(+0.35)		42.32(+0.61)		41.78(△0.54)		41.74(△0.04)	
		全国との差	+0.43		△0.19		+0.35		+0.31	
中学校2年生	女子	宮城県	47.60(△0.35)	30	48.16(+0.56)	27	47.89(△0.27)	29	48.10(+0.21)	26
		全国	48.14(+0.20)		48.72(+0.58)		48.42(△0.30)		48.66(+0.24)	
		全国との差	△0.54		△0.56		△0.53		△0.56	
調査の方式		抽出 (小5:18.7%, 中2:18.5%)		抽出 (小5:18.8%, 中2:18.4%)		悉皆		悉皆		

※順位については，本県教委独自の集計によるもの

- ① 中学校男子において体力合計点で全国平均値を上回り，小5男女，中2女子で下回った。
 ② 小5女子においては，全国との平均値の差が年々縮小している。
 ③ 小5男女・中2男女において前年度と比べると，体力合計点はほとんど変化はない。

※体力合計点の変化について（文部科学省見解）

「±0.5点未満」 ほとんど変化なし 「±0.5～1.0点未満」 わずかに高かった，低かった
 「±1.0以上」 高い・低い

(2) 各種目の記録

【小学校5年生】

表3

区分 調査種目	男 子				女 子			
	宮城県	全 国	全国比較 (偏差値)	順位	宮城県	全 国	全国比較 (偏差値)	順位
握力(kg)	16.54	16.55	50.0	26	16.33	16.09	50.6	16
上体起こし(回)	19.35	19.56	49.6	29	18.24	18.26	50.0	20
長座体前屈(cm)	32.91	32.87	50.0	18	37.13	37.21	49.9	16
反復横とび(点)	41.58	41.61	50.0	14	39.74	39.36	50.5	28
20m シャトルラン(回)	48.47	51.67	48.5	40	38.32	40.29	48.8	37
50m 走(秒)	9.53	9.38	48.4	41	9.73	9.64	48.9	40
立ち幅とび(cm)	147.75	151.70	48.2	47	141.50	144.76	48.4	44
ソフトボール投げ(m)	23.29	22.90	50.5	24	13.98	13.90	50.2	33
体力合計点	53.04	53.91	49.0	40	54.57	55.01	49.5	33

※全国比較（偏差値）の用語説明

偏差値とは、測定単位が異なる記録を比較する際に用い、全国と同レベルであれば50とするもの。50を超えれば「上回っている」50未満は「下回っている」と表現できる。

- ① 小5男子においては、ソフトボール投げ等で全国平均値を上回っている。
- ② 小5女子においては、握力、反復横とび等で全国平均値を上回っている。
- ③ 小5男女とも、立ち幅とび、20mシャトルラン、50m走で全国平均値を下回っている。

【中学校2年生】

表4

区分 調査種目	男 子				女 子			
	宮城県	全 国	全国比較 (偏差値)	順位	宮城県	全 国	全国比較 (偏差値)	順位
握力(kg)	29.18	29.00	50.3	24	23.52	23.70	49.6	30
上体起こし(回)	27.79	27.45	50.6	12	23.38	23.07	50.5	14
長座体前屈(cm)	43.60	42.92	50.7	16	45.18	45.23	49.9	21
反復横とび(点)	51.64	51.31	50.4	24	45.61	45.63	50.0	29
持久走(秒)	399.87	392.89	48.9	35	299.55	290.64	48.0	34
20m シャトルラン(回)	84.13	85.29	49.5	35	56.39	57.77	49.3	34
50m 走(秒)	8.05	8.03	49.8	27	8.88	8.87	49.9	27
立ち幅とび(cm)	192.92	193.43	49.8	32	164.89	166.53	49.3	37
ハンドボール投げ(m)	20.30	20.86	49.0	44	12.07	12.88	48.0	47
体力合計点	42.05	41.74	50.3	21	48.10	48.66	49.5	26

※全国比較（偏差値）の用語説明

同上

- ① 中2男子においては、長座体前屈、上体起こし等で全国平均値を上回っている。
- ② 中2女子においては、上体起こし等で、全国平均値を上回っている。
- ③ 中2男女とも、持久走、ハンドボール投げ等で、全国平均値を下回っている。

【質問紙調査】

(1) 児童生徒質問紙調査

① 1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合		小学校5年		中学校2年	
		宮城県	全 国	宮城県	全 国
	男子 (前年)	7.2% (9.9%)	6.3% (9.1%)	4.7% (7.4%)	6.9% (9.7%)
女子 (前年)	14.6% (24.6%)	13.3% (21.0%)	17.7% (24.3%)	21.8% (29.9%)	

- 小5男女において、全国の割合より高いが、前年度よりも低くなっている。
- 中2男女において、全国の割合より低く、前年度よりも低くなっている。

② 1週間の総運動時間 (全国値を50としたときの偏差値で表示)		小学校5年		中学校2年	
		宮城県	全 国	宮城県	全 国
	男子	48.5	50.0	50.2	50.0
女子	48.4	50.0	50.9	50.0	

- 小5男女において、全国平均を下回っている。
- 中2男女において、全国平均を上回っている。

③ 運動（体を動かす遊びを含む） やスポーツをすることは好き ですか (好き、やや好きと回答した割合)		小学校5年		中学校2年	
		宮城県	全 国	宮城県	全 国
	男子 (前年)	93.9% (91.1%)	94.2% (91.0%)	90.8% (87.2%)	90.7% (86.6%)
女子 (前年)	87.8% (81.3%)	87.6% (81.2%)	80.6% (74.8%)	79.3% (72.7%)	

- 小5男子において、全国の割合より低いが、男女とも前年度よりも割合が高くなっている。
- 中2男女において、全国の割合より高く、前年度よりも高くなっている。

④ 運動（体を動かす遊びを含む） やスポーツをすることは得意 ですか (得意、やや得意と回答した割合)		小学校5年		中学校2年	
		宮城県	全 国	宮城県	全 国
	男子 (前年)	83.8% (81.4%)	85.0% (81.7%)	74.2% (72.3%)	74.5% (72.1%)
女子 (前年)	72.6% (65.3%)	72.6% (65.6%)	57.7% (54.5%)	57.3% (53.6%)	

- 小5男子において、全国の割合より低いが、男女とも前年度の割合よりも高くなっている。
- 中2女子において、全国の割合より高く、男女とも前年度の割合よりも高くなっている。

⑤ 体育の授業は楽しいか (楽しい、やや楽しいと回答した割合)		小学校5年		中学校2年	
		宮城県	全 国	宮城県	全 国
	男子 (前年)	94.4% (92.6%)	94.9% (92.4%)	91.1% (86.8%)	89.1% (84.4%)
女子 (前年)	90.8% (85.1%)	91.1% (85.3%)	83.7% (75.3%)	82.7% (73.8%)	

- 小5男女において、全国の割合より低いですが、前年度よりも割合が高くなっている。
- 中2男女において、全国の割合より高く、前年度よりも割合が高くなっている。

⑥ 運動部所属 (入っている児童生徒の割合)		小学校5年		中学校2年	
		宮城県	全 国	宮城県	全 国
	男子	65.2%	72.1%	85.4%	77.1%
女子	40.3%	49.5%	65.9%	56.3%	

- 小5男女において、全国より割合が低い。
- 中2男女において、全国より割合が高い。

(2) 学校質問紙調査

①学校全体で、体力・運動能力の向上のための目標を設定していますか。 (設定していると回答した割合)	小学校		中学校	
	宮城県	全 国	宮城県	全 国
	72.4%	80.1%	52.1%	67.0%

○ 学校全体で目標設定している学校の割合は、小・中学校とも全国の割合よりも低い。

②学校全体で、体力・運動能力の向上に係る取組を行っているか。 (行っていると回答した割合)	小学校		中学校	
	宮城県	全 国	宮城県	全 国
	86.5%	90.6%	66.7%	69.4%

○ 体力・運動能力向上に係る取組をしている学校の割合は、小・中学校とも全国の割合よりも低い。

③生活習慣改善の取組を行っているか (行っていると回答した割合)	小学校		中学校	
	宮城県	全 国	宮城県	全 国
	68.2%	78.0%	43.7%	56.9%

○ 生活習慣改善に向けた取組をしている学校の割合は、小・中学校とも全国の割合よりも低い。

④各家庭に、運動やスポーツの意義や実施について、説明・呼びかけ等を行うことはあるか。 (あると回答した割合)	小学校		中学校	
	宮城県	全 国	宮城県	全 国
	60.4%	61.6%	35.7%	37.4%

○ 各家庭へ働きかけている学校の割合は、小・中学校とも全国の割合よりも低い。

⑤前年度研究授業を小学4年生及び中学1年生で実施したか (実施したと回答した割合)	小学校		中学校	
	宮城県	全 国	宮城県	全 国
	7.7%	9.5%	54.3%	41.8%

○ 体育科・保健体育科の研究授業を行っている学校の割合は、小学校では全国の割合よりも低く、中学校では高い。

3「学校での体育・健康に関する指導の改善で特に参考とされることが望まれる5事項」(宮城県分)

(1) 幼児期の多様な運動経験【小学校】

〈小学校入学前にどんな運動をおこなっていたか〉

小5男子	いつも同じ内容	いろいろな内容	行っていなかった	小5女子	いつも同じ内容	いろいろな内容	行っていなかった
宮城県	27.5%	64.6%	7.9%	宮城県	19.0%	74.3%	6.7%
全国	27.7%	65.4%	6.9%	全国	19.3%	74.0%	6.7%

- 小5男子において、小学校入学前にいろいろな運動を行っていた割合が全国より低い。
- 小5女子において、小学校入学前にいろいろな運動を行っていた割合が全国より高い。

(2) 体育・保健体育の授業の充実【小学校】

〈体育の授業は楽しいか〉

体育の授業は楽しいか (楽しい、やや楽しいと回答した割合)		小学校5年		中学校2年	
		宮城県	全国	宮城県	全国
		男子 (前年)	94.4% (92.6%)	94.9% (92.4%)	91.1% (86.8%)
女子 (前年)	90.8% (85.1%)	91.1% (85.3%)	83.7% (75.3%)	82.7% (73.8%)	

- 小5男女において、全国の割合より低いが、前年度よりも割合が高くなっている。
- 中2男女において、全国の割合より高く、前年度よりも割合が高くなっている。

(3) 部活動の充実

〈部活動に加入しているか〉

中2男子	運動部	文化部	地域のスポーツ クラブ	所属していない	中2女子	運動部	文化部	地域のスポーツ クラブ	所属していない
宮城県	85.4%	6.8%	14.8%	2.6%	宮城県	65.9%	29.3%	9.2%	2.6%
全国	77.1%	7.3%	15.2%	6.2%	全国	56.3%	32.1%	8.6%	7.2%

- 中2男女の部活動の加入割合では、男女とも、運動部の加入率が全国よりも高く、運動部・文化部ともに加入していない割合は全国よりも低い。

(4) 家庭や地域でもっと運動をするようになる条件整備【小学校】

〈家の人に運動やスポーツをするようすすめられるか〉

小5男子	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	小5女子	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
宮城県	28.2%	35.2%	21.9%	14.7%	宮城県	17.2%	39.4%	29.1%	14.3%
全国	28.3%	35.3%	22.3%	14.0%	全国	17.6%	38.6%	30.2%	13.5%

- 小5男女において、家の人から運動やスポーツをすすめられる割合は全国とほぼ同様である。
- 小5男女において、「まったくない」の割合が男女とも全国の割合よりも高い。

(5) 生涯にわたって運動やスポーツをしようとする意欲

〈中学校で授業以外に自主的に運動したいか〉

小5男子	1. 思う	2. 思わない	3. わからない	小5女子	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
宮城県	74.0%	6.8%	19.2%	宮城県	62.2%	9.3%	28.5%
全国	73.9%	6.7%	19.4%	全国	62.6%	9.2%	28.2%

- 小5男女において、中学校でも運動をしてみたいと回答した割合は男女とも全国とほぼ同じ割合であった。

〈中学校卒業後、自主的に運動したいか〉

中2男子	1. 思う	2. 思わない	3. わからない	中2女子	1. 思う	2. 思わない	3. わからない
宮城県	69.2%	9.4%	21.4%	宮城県	50.6%	15.7%	33.7%
全国	66.5%	10.5%	23.0%	全国	52.6%	13.4%	33.9%

- 中2男女において、卒業後も自主的に運動をしてみたい割合は男女とも全国よりも高い。

4 調査結果から見えてきた主な課題及び対策

<p>【課題1】体力合計点において全国平均に達していない学年がある。また、全国下位の種目がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力合計点で、中2男子を除き、小5男女・中2女子が全国平均値を下回っていた。 ・小5男女の立ち幅とびと中2男女のハンドボール投げが全国下位であった。 	
対 策	<ul style="list-style-type: none"> ① 県内公立全小学校の体育主任等を悉皆とした「体力・運動能力向上に関する講習会」の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の体力・運動能力を向上させるための県の施策や体力向上の意義を説明し、各学校の取組の徹底を図る。 ・ 体力・運動能力調査に係る正確な調査方法及び、課題種目に対する動作指導の在り方の研修を行う。 ・ 課題種目に対する各校の効果的な取組を情報交換し、各校の指導の参考とする。 ② 元気アップ通信の発行 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県教委として体力・運動能力向上に係る課題を明確にし、課題解決に向け、「立ち幅とび」や「ボール投げ」の運動事例の紹介や動作指導の在り方等の情報発信を「みやぎっ子元気アップ通信」をとおして行う。 ③ 元気アップみやぎっ子！『web』長なわ跳び大会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的に運動に取り組むことで、持久力や瞬発力を養う。 ・ 児童の運動習慣確立の観点から、学級全体で取り組める本事業への参加について啓発する。 ④ 関係機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育の授業改善や適切な体力測定実施に向けて大学等の関係機関の協力を得ながら進めて行く。

<p>【課題2】児童の運動習慣の確立が不十分である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1週間の運動時間が60分未満の児童の割合が全国よりも高い。 ・ 児童の総運動時間が全国平均値よりも低い。 	
対 策	<ul style="list-style-type: none"> ① 元気アップみやぎっ子！『web』長なわ跳び大会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 休み時間や放課後など児童自らが運動に取り組めるように、仲間とかかわりながら実施できる長なわとび大会を開催し、目標達成に向けて活動することをとおして運動意欲の向上を図る。 ② 体力・運動能力向上出前研修会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「みやぎっ子！元気アップエクササイズ」をはじめ、多様な運動を研修することで、体育授業の改善を図り、運動やスポーツの楽しさを児童に味わわせることをとおして運動習慣作りに努める。 ③ 県内公立全小学校の体育主任等を悉皆とした「体力・運動能力向上に関する講習会」の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各校の実践を参考にしながら体育の授業改善や運動の日常化等、体力向上に向けた効果的な取組についての情報交換を行い、児童の運動習慣の確立に向けた取組を促す。

<p>【課題3】体力・運動能力向上に係る学校の取組が不十分である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校全体で体力・運動能力向上に係る目標設定をしている学校の割合が全国の割合よりも低い。 ・ 学校全体で体力・運動能力向上に係る取組をしている学校の割合が全国の割合よりも低い。 	
対 策	<ul style="list-style-type: none"> ① 各学校からの「体力・運動能力調査報告書」の様式の変更及び徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学校が自校の課題を明確にし、目標設定の上、体力・運動能力向上に向けた取組を確実に実施するよう、体力向上プランを作成するとともに、具体的な実践を報告する様式に変更し、体力・運動能力向上に向けた取組の確実な実施を促す。(PDCAサイクルによる報告様式) ② 教育（地域）事務所との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各教育（地域）事務所管内毎に、「体力・運動能力向上出前研修会」の充実を図るとともに、学校訪問において、各学校の体力・運動能力向上に係る目標及び取組に対する点検・指導を行う。

教育庁関連情報一覧（平成26年11月13日～平成26年12月16日）

NO.	概要
1	<p>○全国生涯学習ネットワークフォーラム2014宮城大会を開催</p> <p>生涯学習活動の成果を生かした地域づくりや社会づくりなどについて、生涯学習に携わる関係者（行政や教育機関、NPO等の民間団体など）がともに学び合い、フォーラム終了後も継続的な取組が推進されるよう、関係者間のネットワークづくりを目的とした全国生涯学習ネットワークフォーラムを開催した。</p> <p>【概要】</p> <p><プレフォーラム></p> <p>開催日 平成26年10月30日（木）午前10時から16時20分まで</p> <p>場 所 石巻市「遊楽館」</p> <p>内 容 ①交流セッション、②パネルディスカッション、③グループワーク、④全体会</p> <p>参加者 116人</p> <p><メインフォーラム></p> <p>開催日 平成26年11月18日（火）から11月19日（水）まで</p> <p>場 所 仙台市「日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）」</p> <p>内 容 ①郷土芸能紹介、②パネルディスカッション、③全国の事例紹介、④グループワーク、⑤行動宣言</p> <p>参加者 352人</p> <p><沿岸地域訪問></p> <p>※震災の教訓や記憶の風化防止の一助とするため、全国の参加者に「被災地の今」を伝え、語り部や関係団体の活動に触れていただいた。</p> <p>開催日 平成26年11月20日（木）</p> <p>訪問先 ① 南三陸町コース（参加者12人） 一般社団法人南三陸復興推進ネットワーク、南三陸さんさん商店街、南三陸町入谷公民館</p> <p>② 石巻市コース（参加者15人） 門脇地区で語り部の話、石巻NEWSee、復興マルシェ、石巻子どもセンター</p> <p>③ 名取市・亶理町コース（参加者9人） 閑上地区で語り部の話、一般社団法人WATALIS、閑上さいかい市場</p> <p style="text-align: right;">（担当：生涯学習課）</p>



概要	
NO.	
2	<p>○県内高等学校生徒の優秀作品（美術・工芸・書道・写真）を県庁ロビーで展示</p> <p>宮城県高等学校文化連盟に所属する生徒が制作した作品の中から、第38回全国高等学校総合文化祭（いばらき総文祭2014）に本県代表として出品した作品及び東北生活文化大学高等学校美術・デザイン科、宮城野高等学校美術科生徒の作品を展示した。</p> <p>【概要】</p> <p>期 日 平成26年11月25日（火）から12月5日（金）まで</p> <p>会 場 宮城県庁1階ロビー・2階回廊（壁面に展示）</p> <p>内 容 絵 画：21点 「いばらき総文祭2014」 出品作品8点、宮城野高校生徒作品10点、東北生活文化大学高校生徒作品3点</p> <p>書 道：6点 「いばらき総文祭2014」 出品作品（「特別賞」受賞作品2点含む）</p> <p>写 真：8点 「いばらき総文祭2014」 出品作品（「奨励賞」受賞作品1点含む）</p> <p style="text-align: right;">（担当：生涯学習課）</p> 
3	<p>○仙台育英学園高等学校硬式野球部が第45回記念明治神宮野球大会（高校の部）で優勝</p> <p>第45回記念明治神宮野球大会（高校の部）に出場し、優勝した仙台育英学園高等学校硬式野球部の選手及び関係者が、その報告のため11月25日（火）に県を表敬訪問した。</p> <p>【大会概要】</p> <p>大会名 第45回記念明治神宮野球大会</p> <p>期 日 平成26年11月14日（金）から18日（火）まで</p> <p>会 場 明治神宮野球場</p> <p>出場数 高校の部 10校</p> <p style="text-align: right;">（担当：スポーツ健康課）</p> 

○地域の復興を目指した商品開発プロジェクト学習成果発表会を開催

石巻商業高校が主催し、「商品開発を通じて地域を元気にしたい。高校生も地域の復興にかかわりたい」という思いを持った高校が集まり、学習成果発表会を開催した。



【概要】

期 日 平成26年12月6日（土）午前10時45分から午後3時まで

会 場 「仙台なびっく」（一番町商店街）

内 容 ①販売活動 生産物や開発商品、企業とのタイアップ商品の販売

②学習発表 商品開発等の取組みについて発表

③ワークショップ 各校代表生徒によるパネルディスカッション

講 師 石巻専修大学経営学部教授 山崎 泰史 氏

キャリア支援ネットワーク株式会社 佐々木昌人 氏

株式会社デュナミス 松浦 智博 氏

株式会社大沼製菓 大沼 千秋 氏

販売・発表校 計8校

宮城県志津川高等学校、石巻市立女子商業高等学校、宮城県大河原商業高等学校

宮城県農業高等学校、仙台市立仙台商業高等学校、宮城県一迫商業高等学校

宮城県石巻北高等学校、宮城県石巻商業高等学校

(担当：高校教育課)

○沿岸被災地域でルブルフェスティバルを開催

沿岸被災地域に生活している子どもとその親を主な対象として、「ルブル」(しっかり寝ル・きちんと食ベル・よく遊ぶで健やかに伸びル)の一層の認知拡大と理解の促進を図るとともに、体を動かすことの楽しさや心地よさを親子で実感し、日常生活の中で主体的に外遊びや運動・スポーツに取り組み習慣の定着を図ることを目的とした参加体験型イベント「ルブルフェスティバル」を石巻市と亘理町で開催した。

【概要】

(1) ルブルフェスティバル in 石巻

開催日：平成26年11月22日(土)

会場：石巻市総合体育館

(2) ルブルフェスティバル in 亘理

開催日：平成26年12月6日(土)

会場：亘理町佐藤記念体育館

※内容は両会場とも共通

- ① ニュースポーツ・ゲーム、② 昔遊び、手作り体験教室
- ③ ルブルロックンロール(ダンス)の指導
- ④ パネル展示、⑤ パンプフレット等を活用した普及啓発等



※庁内パネル展の開催


11月の「みやぎ教育月間」に合わせ、庁内行政庁舎1階に「平成25年度みやぎっ子ルブル推進優良活動団体」として表彰された幼稚園、保育所、小学校等の取組を紹介するパネル展示を行った。

◆ 展示期間：平成26年10月31日(金)から平成26年11月14日(金)まで

(担当：教育企画室)



NO.	概要
6	<p>○みやぎ高校生マナーアップ運動の一環として高校生とJR東日本職員が意見交換</p> <p>「みやぎ高校生マナーアップ運動」の一環として、公共交通機関の乗車マナーの向上を図るために、普段、通学に公共交通機関を利用している高校生の考えをお互いに聞き、JR職員との意見交換により、JR仙石線における課題と対策について話し合った。</p> <p>【概要】</p> <p>期 日 平成26年12月9日（火）午後4時から午後5時まで</p> <p>会 場 JR仙台駅 大会議室</p> <p>内 容 テーマ「仙石線をより利用しやすくするために」 グループディスカッション後、全体ディスカッションを実施</p> <p>参加者 JR仙石線利用生徒 22名（仙台第一高校、仙台二華高校、仙台向山高校、県工業高校、仙台第二高校、聖ウルスラ学院英智高校、仙台城南高校、明成高校、聖ドミニコ学院高校） JR東日本（①仙台駅、あおぼ通駅、多賀城駅、本塩釜駅、松島海岸駅、宮城野運輸区（各1名）、②宮城サポーターセンター（7名）、③総務部サービス品質改革室（5名））</p> <p style="text-align: right;">（担当：高校教育課）</p> 
7	<p>○東北高等学校陸上競技部が男子第65回全国高等学校駅伝競走大会に出場</p> <p>男子第65回全国高等学校駅伝競走大会宮城県予選会で優勝し、全国大会に出場する東北高等学校陸上競技部の選手及び関係者が、その報告のため12月11日（木）に県を表敬訪問した。</p> <p>【大会概要】</p> <p>大会名 男子第65回全国高等学校駅伝競走大会</p> <p>期 日 平成26年12月21日（日）</p> <p>会 場 西京極総合運動公園陸上競技場</p> <p>出場数 58校（47都道府県代表校＋11地区代表校）</p> <p style="text-align: right;">（担当：スポーツ健康課）</p> 

NO.	概要
8	<p data-bbox="284 779 320 1973">○聖和学園高等学校男子サッカー部が第93回全国高校サッカー選手権大会に出場</p> <p data-bbox="331 589 464 1944">第93回全国高校サッカー選手権大会宮城県大会で優勝し、全国大会に出場する聖和学園高等学校男子サッカー部の選手及び関係者が、その報告のため12月15日（月）に県を表彰訪問した。</p> <p data-bbox="480 1760 512 1901">【大会概要】</p> <p data-bbox="528 1294 560 1888">大会名 第93回全国高校サッカー選手権大会</p> <p data-bbox="571 904 603 1888">期 日 平成26年12月30日（火）から平成27年1月12日（月）まで</p> <p data-bbox="614 1435 646 1888">会 場 柏の葉公園総合競技場 他</p> <p data-bbox="657 1686 689 1888">出場数 48校</p> <div data-bbox="312 172 571 560">  </div> <p data-bbox="699 152 730 501">(担当：スポーツ健康課)</p>

平成２９年度全国高等学校総合体育大会宮城県準備委員会の設立について

平成２９年度に南東北三県（山形県・宮城県・福島県）において開催される全国高等学校総合体育大会を円滑に実施するため、下記のとおり「平成２９年度全国高等学校総合体育大会宮城県準備委員会」を設立し、会議を開催しました。

記

1 委員構成

別添名簿（２１名）のとおり

2 第１回宮城県準備委員会の概要

（１）日 時 平成２６年１１月２０日（木）１５：００～１５：５５

（２）場 所 宮城県庁９階 第一会議室

（３）内 容

イ 報告事項

- ・平成２９年度全国高等学校総合体育大会の概要及び準備経過の概要について
- ・競技種目別大会会場地について
- ・南東北三県開催基本方針について
- ・大会愛称，スローガン，シンボルマーク，総合ポスター図案の募集について

ロ 審議事項

第１号議案 平成２９年度全国高等学校総合体育大会宮城県準備委員会会則（案）
について

第２号議案 平成２６年度事業計画（案）について

第３号議案 宮城県開催基本構想（案）について

第４号議案 年次別業務推進計画（案）について

審議事項については、各議案とも承認。

平成29年度全国高等学校総合体育大会(南東北ブロック)
宮城県準備委員会委員名簿

区分等	役職	職名	氏名	備考	
1	会長	宮城県教育委員会	教育長	高橋 仁	
2	副会長	宮城県高等学校体育連盟	会長	高橋 昭博	
3	副会長	(公財)宮城県体育協会	会長	佐藤 博俊	
4	委員	仙台市教育委員会	教育長	上田 昌孝	
5	委員	塩釜市教育委員会	教育長	高橋 睦磨	
6	委員	気仙沼市教育委員会	教育長	白幡 勝美	
7	委員	多賀城市教育委員会	教育長	菊地 昭吾	
8	委員	登米市教育委員会	教育長	片倉 敏明	
9	委員	大崎市教育委員会	教育長	青沼 拓夫	
10	委員	柴田町教育委員会	教育長	船迫 邦則	
11	委員	松島町教育委員会	教育長	小池 満	
12	委員	七ヶ浜町教育委員会	教育長	武田 光彦	
13	委員	利府町教育委員会	教育長	本明 陽一	
14	委員	宮城県高等学校長協会	会長	渡邊 幸雄	
15	委員	宮城県高等学校文化連盟	会長	齋藤 公子	
16	委員	宮城県中学校体育連盟	会長	朝間 康子	
17	委員	宮城県私立中学高等学校連合会	会長	松良 千廣	
18	県	宮城県教育庁生涯学習課	課長	三浦 正之	
19	関係団体	委員	宮城県スポーツ推進審議会	会長	前田 順一
20		委員	読売新聞東京本社東北総局	総局長	谷川 泰司
21		委員	日本放送協会仙台放送局	局長	西村 睦生

平成29年度全国高等学校総合体育大会（南東北）の概要

1 全国高等学校総合体育大会

全国高等学校総合体育大会（インターハイ）とは

「全国高等学校総合体育大会」は、それまで全国各地で個別開催されていた競技種目別大会を、公益財団法人全国高等学校体育連盟（昭和23年発足）が、昭和38年度から統合して誕生した大会である。現在では、規模及び内容において高校生最大のスポーツの祭典に発展し、夏季大会及び冬季大会が開催されている。

平成23年度からは、これまでの各都道府県の単独開催から、ブロックごとの開催に変更になっている。

目的

教育活動の一環として高等学校（中等教育学校後期課程を含む。）生徒に広くスポーツ実践の機会を与え、技能の向上とスポーツ精神の高揚を図るとともに、生徒相互の親睦を深め、心身ともに健全な青少年を育成する。

主催

公益財団法人全国高等学校体育連盟，開催地都県・教育委員会，会場地市町・教育委員会，関係中央競技団体

後援

文部科学省 公益財団法人日本体育協会 日本放送協会 県体育協会

大会規模（夏季大会）

競技数 30競技

参加者 約35,000人（選手・指導者）

期 間 原則として8月1日から20日までの間のおおむね17日間

2 大会の開催地

平成22年度沖縄県開催をもって都道府県単独開催は終了（一巡終了）

平成23年度以降は全国を地域割りしたブロック開催（東 中 西の輪番）

平成29年度は東北ブロック南東北として、山形県（幹事）、宮城県及び福島県で開催

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
地域 (ブロック)	東 [北海道・ 東北・関東]	中 [北信越・ 東海・近畿]	西 [中国・四 国・九州]	東 [北海道・ 東北・関東]	中 [北信越・ 東海・近畿]	西 [中国・四 国・九州]	東 [北海道・ 東北・関東]
県	(北東北) 青森/秋田/ 岩手	(北信越) 新潟/富山/ 石川/福井/ 長野	(北部九州) 大分/福岡/ 佐賀/長崎	(南関東) 山梨/千葉/ 東京/神奈川	(近畿) 和歌山/滋賀 /京都/大阪/ 兵庫/奈良	(中国) 岡山/鳥取/ 島根/広島/ 山口	(南東北) 山形/宮城/ 福島

3 各県の実施競技種目等

山形県 (幹事県)	宮城県	福島県
総合開会式		
陸上競技	バレーボール(女子)	ソフトテニス
体操	サッカー	卓球
バレーボール(男子)	水泳	バスケットボール
ソフトボール	相撲	柔道
バドミントン	ボート	ハンドボール
登山	剣道	ボクシング
レスリング	弓道	ウェイトリフティング
ホッケー	フェンシング	自転車競技
カヌー	アーチェリー	空手道
	なぎなた	テニス
	少林寺拳法	
9 競技+総合開会式	11 競技	10 競技

バレーボールは男女別で分離し開催。

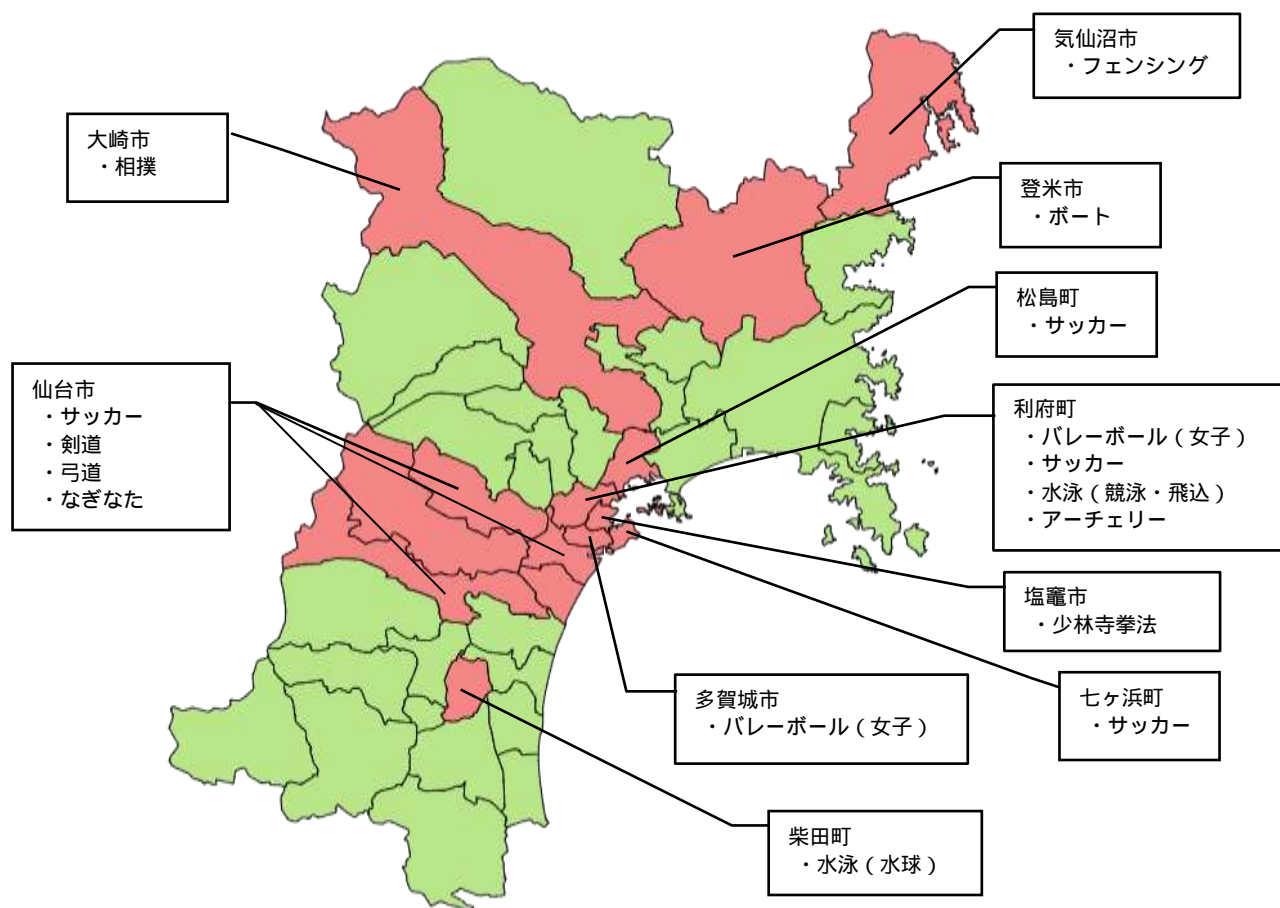
ヨットについては、平成 27 年度から和歌山県で固定開催。

平成29年度全国高等学校総合体育大会(南東北) 競技種目別大会会場地

開催時期 平成29年7月下旬～8月中旬

総合開会式 山形県内

宮城県開催競技(11競技13種目)



競技種目	開催市町	予定会場
バレーボール(女子)	多賀城市	多賀城市総合体育館
	利府町	セキスイハイムスーパーアリーナ、利府町総合体育館
サッカー	仙台市	ユアテックスタジアム仙台、仙台泉サッカー場、泉総合運動公園人工芝グラウンド
	松島町	松島フットボールセンター、松島運動公園多目的広場
	七ヶ浜町	七ヶ浜サッカースタジアム
	利府町	ひとめぼれスタジアム宮城、宮城県サッカー場
水泳	競泳、飛込	利府町 セントラルスポーツ宮城G21プール
	水球	柴田町 ヒルズ県南総合プール
相撲	大崎市	大崎市鳴子スポーツセンター
ボート	登米市	アイエス総合ボートランド
剣道	仙台市	仙台市体育館
弓道	仙台市	仙台市体育館
フェンシング	気仙沼市	気仙沼市総合体育館
アーチェリー	利府町	ひとめぼれスタジアム宮城
なぎなた	仙台市	仙台市宮城野体育館
少林寺拳法	塩竈市	塩竈ガス体育館

会場地、競技会場、競技日程の正式決定は(財)全国高等学校体育連盟の承認後となる。